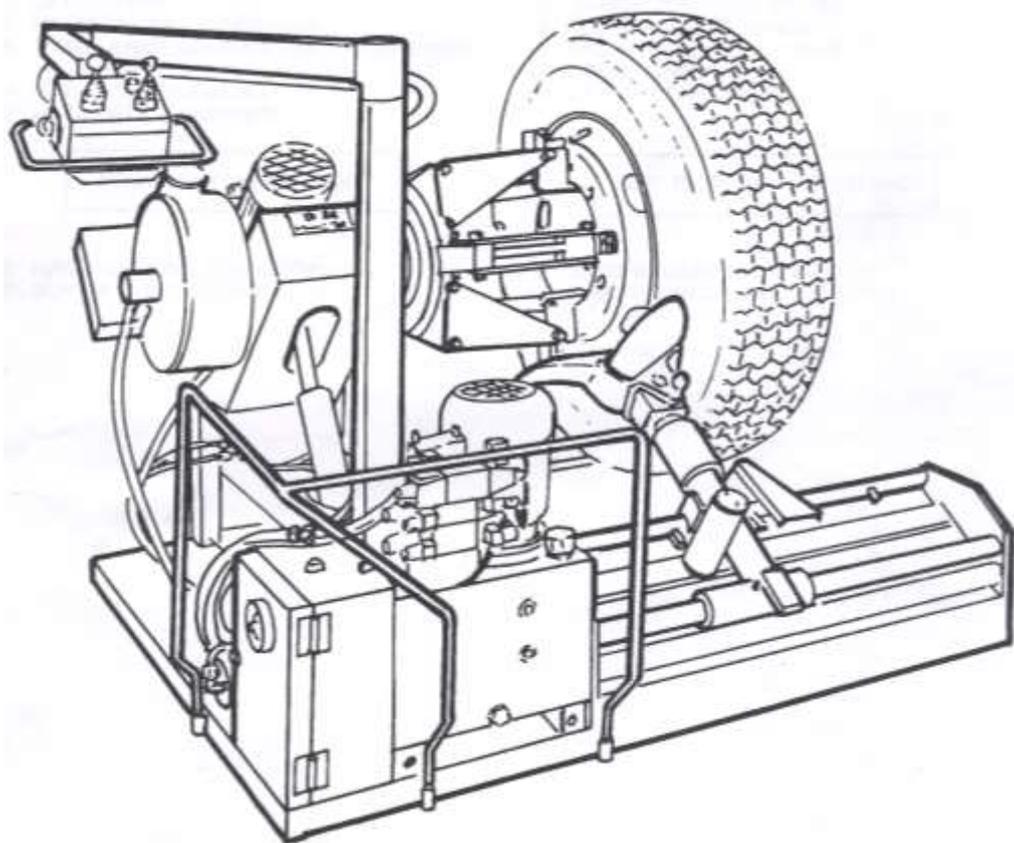


取扱説明書

TB26

大型タイヤチェンジャー



(株) プリマタイヤサプライズ

2017.05

目次

1. 使用目的	5頁
2. 安全規定	6頁
3. 輸送	7頁
4. 開梱	8頁
5. 組み立て及び始動、設置	8頁
6. 電気の接続	9頁
7. 長期放置の注意	9頁
8. 廃棄処分の注意	10頁
9. 技術仕様	11頁
10. サービス仕様 (能力)	11頁
11. 名版	11頁
12. 定期点検	12頁
13. トラブルシューティング表	13頁
14. 使用上の説明、及び注意事項	13頁
15. 随時点検	15頁
16. タイヤ脱着方法	17～25頁
17. 部品図、表、電気配線、油圧配管図	26～28頁

部品のご発注の際は

図面番号 (例; A-12)

及び8桁コード番号 (例; 81120008) を記してください。

(お願い)

尚、原文取扱説明書、部品図表が同封されている場合の部品のご発注に際しましては、予告なしの改良による部品違いを避ける為、原文取り説の番号からお選びの上お願い致します。

EC 準拠 宣誓書

当社 モンドルフォは、下記製品に対し、製造者としての全責任を負うことを宣誓いたします：

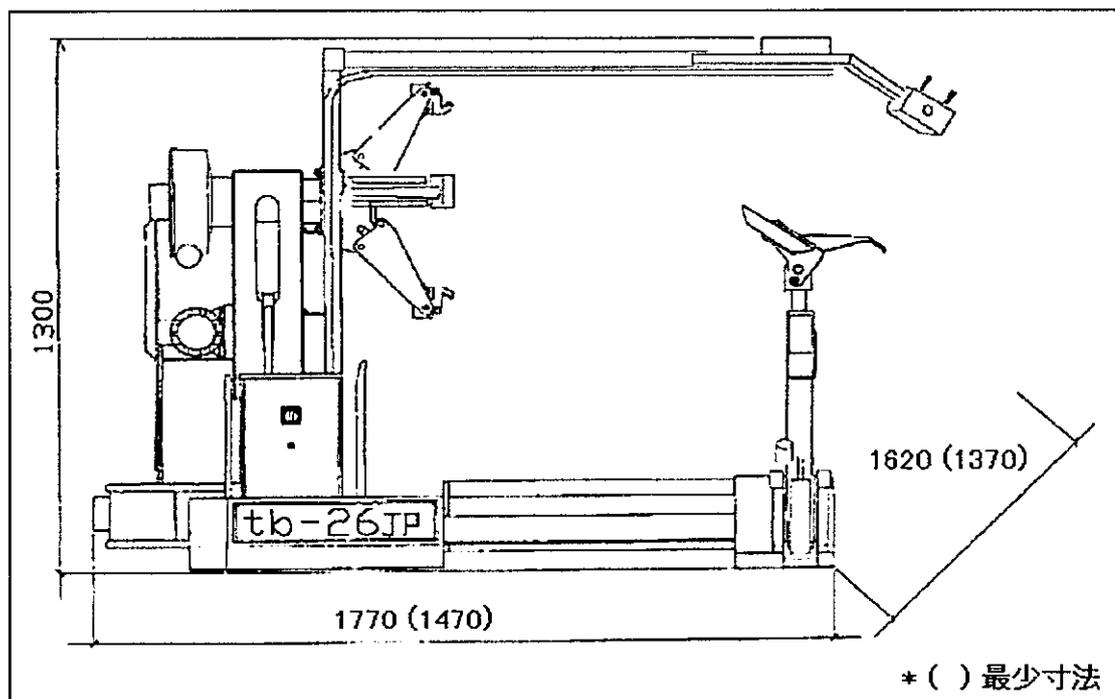
TB26

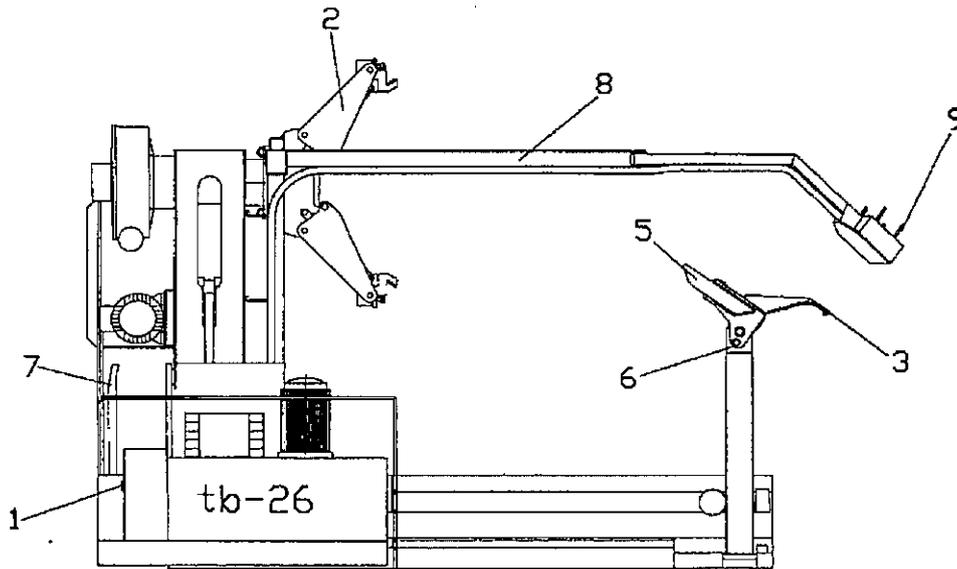
S/N;

当宣誓書は89/392/EEC-91/368/EEC-93/44/EEC-93/68/EEC-73/23/EEC指示規定に引き続き下記の規格及びその他の規範書類に関連準拠するものです：

モンドルフォ社

エンリコ サントロ





- 1、配電盤 (メインスイッチ)
- 2、チャッキングデバイス
- 3、フックツール
- 4、なし
- 5、ディスクツール
- 6、ツールアーム
- 7、レバーツール
- 8、ユニバーサルアーム
- 9、リモートコントロールレバー

1. 使用目的

このマニュアルは当社製品の必要部品で、機械の安全使用や保守に関し重要事項が記載されているので、使用法や指示等を良く読んで下さい。

☞この取扱説明書は、いつでも使用できるように、大切に保管してください。

TB26 型タイヤチェンジャーはトラック、農業用トラクター、小型建設機械のタイヤを脱着用に設計されたもので、対応タイヤサイズは14インチから26"まで又最大ホイール径は1500MMとなっています。全ての機能は電動油圧式で、特殊自在式アームの制御装置でどんな作業位置からも操作が可能です。尚、この機械は、この機械の本来の設計目的のみ使用してください。その他の目的での使用は、不適当であるし、実情にそぐいません。

注意

不適切な、不正確な、または実情に合わない使用による故障の責任を、メーカーは負いません。

2. 安全規定

当機の操作に際しては、特に訓練を受け又は指定された人のみで行って下さい。
メーカーの承認の無い当機の改造や不適切な干渉が原因と思われる損害の責任は、メーカーはその責めを免ぜられるものとし、
安全装置の除去や変更はPL法（安全規定）の侵害とみなします。
当機器は爆発や火災の危険のない場所でのみで使用して下さい。

安全装置

- コントロールパネルを開け先ずスイッチで電源を落とす。
- 制御装置の論理回路は作業者の誤りを回避します。
- きこの型の緊急ボタンで機械の電源を切る。
- 制御が解除された場合、全ての機能は機能不能になります。

空気充填

- TB チェンジャーで、ホイールをクランプ（チャッキング）しての空気充填は禁止です。
必ず、安全囲い（セフティーケージ）の中で、空気充填作業を実施して下さい。
- パンク修理をしたタイヤは、コードが疲労している場合がありますので、空気充填後5分以上を目安として、安全囲い内で破裂しない事を確認してから取り出して下さい。
- 作業者は、安全メガネ及びヘルメットを装着して作業を行なって下さい。

⚠ 警告

安全装置の改造又は取り外しは絶対に禁止されています。

注意

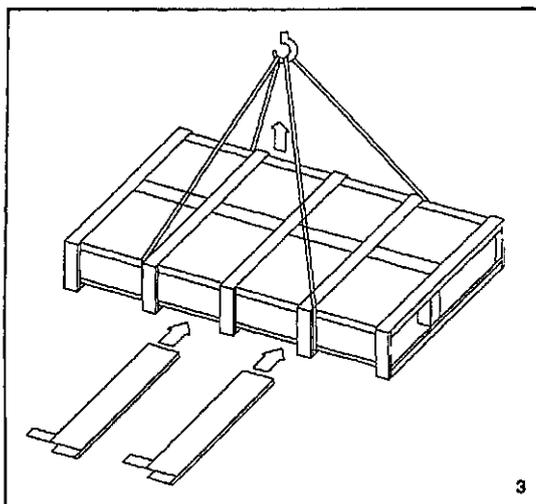
作業中や保守点検時は、身の危険を避ける為に安全を守る服装、身なりをして下さい。
長いネクタイ、ネックレスや指輪を着けないで下さい。

警告

TB チェンジャーの配電BOXを開け、内部で「火気厳禁」や「火気と高温に注意」の表示があるスプレー等は使用しないで下さい。

3. 輸送

梱包された状態の機械の輸送は、輸送パレットにフォークリフトトラックの爪を適正な場所に入れてから、移動してください。



注意

梱包状態の機械はクレーンやホイストで吊り上げないで下さい。

開梱した後、機械の移動の際は各角部をダンボール等の柔らかい当てもので保護するよう注意して下さい。

- ・ 又、ワイヤーロープは使用しないで下さい。
- ・ スリングベルトは450 cm以上の長さ、1000 kg以上の対荷重のものを使用して下さい。

機械の取扱/保管

梱包されていない状態の機械の取扱には、アンカーポイントのみを使って下さい。

梱包された機械の保管の場合は、乾燥した場所で、出来れば通気装置の付いた場所で行って下さい。

⚠ 警告

ここで薦めていない方法で機械部品を掴む事は絶対避けて下さい。

梱包された機械の保管環境温度は 0℃から+45℃です。

4. 開梱

梱包を解いたら、機械が完全で無傷であるか、外観上のダメージがないかチェックしてください。疑問がある場合は、**使用せず**直ちにお買い求めの業者の熟練した担当者ご連絡して下さい。子供達がケガをするかも知れませんが、梱包材（ビニール袋、発砲スチロール、釘、ネジ、木製パーツ等）を子供の手の届く場所に放置しないで下さい。

・ 注意

梱包材の中にアクセサリーの入った箱はラッピングされていますので、梱包材と一緒に捨てないように注意下さい。

上記梱包材を廃棄する場合は、きちんと分類し、有害物及び有機物質に変わらないものは、正規の手続きを取り、指定された場所へ投棄して下さい。

5. 組立及び始動

設置面積

390 X 465 CM のスペースが設置には必要です。

操作位置から、作業者が機械や周辺域を良く見えること。作業者は危険回避の為にエリア内への外部の人や物の侵入を禁止する。

機械は水平な床に、コンクリートやタイル張りが理想、設置して下さい。ぬかるんだり、不安定な地面は避けること。機械を設置する地面は機械から発せられる負荷に耐えうる事。

アンカーボルトでの固定方法

アンカーボルトでの固定方法は、（重量タイヤ等が多く固定が必要と思われる場合）

1. 16MM の対で80MMの深さの穴を開ける。
2. 穴をきれいにする。
3. ソフトハンマーでアンカーボルトを穴に叩いて入れます。
4. 45Nmでセットしたトルクレンチを使って硬く締めます。（この数値が得られない場合は穴が大きいゆ、コンクリートが固まっていない事が考えられます）

作業環境条件

- 湿度： 57% - 95%
- 温度： 0℃ - 45℃

6. 組み立と運転

各コンポーネントを梱包より取り出したら、全ての部品をチェックし、完全であるか異常がないか確認して下さい。その後下記に従い各部の組立を行って下さい。

組立に必要な工具：

- ドライバー
- 13スパナー

ボルトでベースに制御柱を固定します。

電気の接続

⚠ 警告

どんなに些細な事でも、電気システムに関することは、専門家の手が必要です。

標準機種への電源は、3相200Vです。

機械の電圧はお客様の特別の要求により工場でセットされています。

電圧に関する如何なる変更にも専門家が行って下さい。

電源用ケーブルは最低4平方ミリメートルスクエアの3芯+アースは操作パネルのL1, L2, L3のターミナルへ接続の事。操作パネルのターミナルボードへ電源ケーブルを接続する前に、下記の事を行って下さい。

- 電源が200Vである事のチェック。
- ケーブルの状態やアース線がセットされている事のチェック。
- 過電流を守るサーキットブレーカーが設置しているかのチェック (定格 30mA)。
- 充分注意をして機械に線を接続する。

電機接続の仕様は名板に記載された機械の仕様を充たしていません。

通常作動では、ホイールは時計廻りです；反対の場合はパワーサプライプラグの2本の線を逆にして下さい。

⚠ 警告

上記注意事項に従わずに起きた如何なる損害に対しては、メーカーはその責めを負いません。又その時点で、保証は消滅するものとします。

7. 長期放置の注意

長期間、機械を使用しないで置く場合には、電源を外し、タンクの油圧オイルを空にして、埃等によるダメージを受けないように本体を保護して下さい。乾燥して、損傷の危険のある部分にはグリースを塗って下さい。

又、必要に応じてガスケット等は交換してください。

8. 廃棄処分の注意

機械を使用しなくなった時には、電気、電子、油圧及びプラスチックに関係する部分を取り外して操作出来ない状態にしてください。残りの部分は鉄屑として廃棄して下さい。

ケーブル等電気材料は銅として廃棄すること。

危険と思われる、下記部品は安全にする様に注意して下さい。

- 油圧タンク
- 電動モーター

規定の処理手順に従って個々のアイテムのカテゴリーを考えて下さい。

⚠ ・ 警告
日本の処理基準に従って廃棄処分を行って下さい。

油圧オイルのアドバイスと注意

使用済油圧オイルの廃棄

使用済オイルは下水、地下水路、運河に流さないで下さい。集積して専門の廃棄業者に渡して下さい。

油圧オイルの漏れやこぼれ

泥や砂の様な吸収剤でこぼれたオイルの拡散を最小限にして、溶剤で取り除きます。

油圧オイルの使用上の予防策

皮膚に長く付着させない事。

オイルの霧や空中への拡散を防ぐ事。

下記の予防策を行う事；

- 飛び散りを防ぐ。(機械の上に布か保護スクリーンを掛ける)
- 石鹸や水で頻繁に洗う。(溶剤は使わない事)
- レンジで手を乾かさなない事。
- 着衣がオイルでびしょ濡れになった場合、着替えて下さい。
- 油の付いた手でタバコを吸ったり物を食べたりしない事。
- 油の付いた鋏物には手袋をはめて下さい。
- 油が飛び散る場合は、ゴーグルを付けて下さい。
- 鋏物オイルへの対抗策としてエプロンをして下さい。
- オイルが霧状になる場合はベンチレーターを使用して下さい。

油圧オイルの応急手当て手引き

飲み込む - 処置の必要なし。

吸引 - 自然嘔吐の場合は直ぐに医者に掛かって下さい。

吸入 - 大量の強い蒸気又は霧を吸った場合は、外気を吸わせて下さい。

目 - 大量の水で目をすすいで下さい。

皮膚 - 石鹸や水で良く洗い落とす。

9. 技術仕様

- 3相電源 200V 50/60HZ

スピンドルモーター (チャッキング)

- 3相モーター 4/2 ポール
電源 200V 50/60HZ 1.5 ~ 2.2 kw 2スピード

油圧ユニット

- 3相モーター 4 ポール
電源 200V 50/60HZ 2.2 kw

	最小	最大
- 機械幅	1370mm	1620mm
- 長さ	1470mm	1770mm
- 高さ		1300mm
- 機械重量	530 KG	
- 油圧油容量	10 L	
	最低	最高
- 操作時温度	0° C	45° C
- 耐久湿度	57% ~ 95% (40° C 時点)	

10. サービス仕様 (能力)

- | | 最小 | 最大 |
|-------------|--------|-------|
| - フランジクランプ幅 | 115mm | 560mm |
| - リムクランプ径 | 13" | 26" |
| - 最大タイヤ径 | 1500mm | |
| - 最大タイヤ幅 | 700mm | |

11. 名板

-  MONDOLFO FERRO SPA
VILAE DELL "INDUSTRIA NO. 20
61037 MONDOLFO (PS) ITALY
- CE マーク
- 製造年
- モデル: TB26
- セリアル番号:

12. 定期点検

機械を効率的に又正しく作動させる為には、メーカーの指示に従い、清掃や定期点検を行うことは絶対に必要なことです。

 警告
清掃や定期点検はメーカーの下記の指示に従って特定の人が行って下さい。

油圧レベルのチェック。必要な場合は、API CIS32 か同等の油圧オイルを補充して下さい。
減速装置にグリースがあるかどうかのチェック。必要な場合はAPI DT100 か同等品を足して下さい。

メーカー名	油圧油種	潤滑油種 (グリース)
API	CIS 32	API GREASE LT-S
MOBIL OIL	DTE 24	MOBIL PREX 46
SHELL	TELLUS 25	ALVANIA EP 1
ESSO	NUTO HP 32	BEACON EP 1
BP	ENERGOL HLP 65	ENERGREASE LS1EP
AGIP	OSO 35	GR.MU EP1
FINA	HYDRAN 31	MARSON EPL 1

 警告
上記以外の品質の油圧オイルへの変更は機械の寿命を早めるるたり、作業性を損なう事があります。

- 駆動部位を清潔にして下さい。
- 機械や作業場を清潔にして、重要部分にゴミが入らない様にして下さい。
- 定期的にグリースポンプで駆動部、各部品にグリースを供給して下さい。

重要事項

レリーフバルブの圧力値を変えない事。又圧力制御の設定値を変えない事。
製造業者は、上記ルールに反して起きた怪我や破損に対する責めは負いません。

・ 注意
保守点検に際しては、必ず電源プラグを抜いてから行って下さい。
清掃にはコンプレッサーからの空気で吹き飛ばす事はしないで下さい。

13. トラブルシューディング

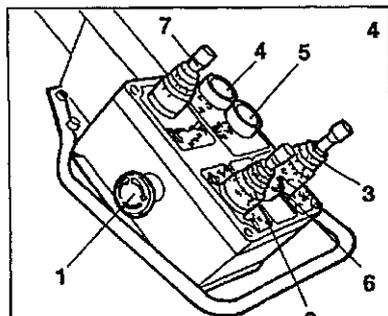
トラブル内容	可能性のある原因	処 置
コントロール使用時にヒューズが飛んだ	1. 電源が空気に接続されている 2. インバーターのショート (ワグ初動時) 3. モーターのショート	● 線の点検 ● インバーターの交換 ● モーターの交換
ピードブレーカシリンダ-の力が充分でない	1. 油圧回路のギヤポンプの破損 2. シリンダ-シールの摩耗	● 油圧インの交換 (MAX圧力のチェック) ● シールの交換
ターネブルの爪が回転しない	1. インバーターの故障 (ワグ初動時) 2. コントロールパ-の故障	● インバーターの交換 ● コントロールパ-の交換
ターネブルの爪が回転しない (モーターが異音を出す)	モーターが単相回転	● プラグ又はインバーターの線をチェック。 ● インバーター又はモーターの交換 ● モーターの交換
ターネブルの爪の回転力が弱い	1. ベルトの張りが弱い 2. ピードブレーカシリンダ-が動作に対し強く押し過ぎ	● ベルトの張りの調整又は交換 ● タイピードにグリスを塗る。

14. 使用上の注意

TB26 は指定されている人のみが使用して下さい。このマニュアルに記載してある操作手順に慣れない人の使用は重大な危険の原因になる事があります。

コントロールボックス

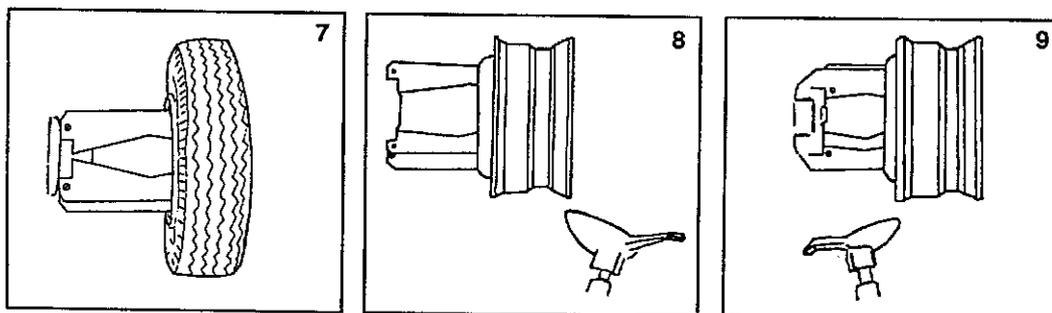
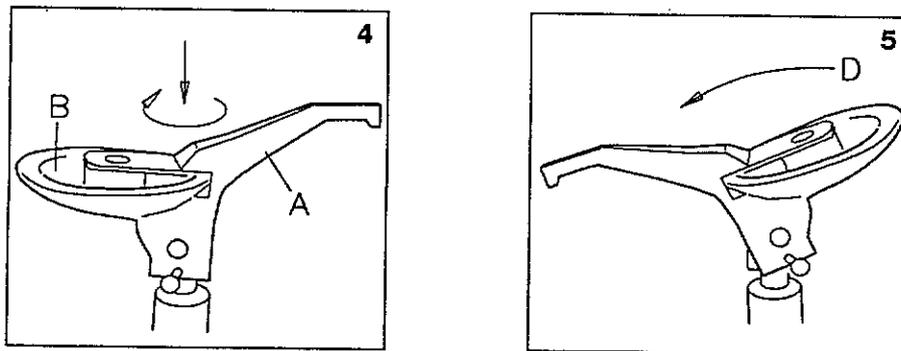
1. 停止スイッチ
2. 2方向スイッチ、チャックの正/逆回転
3. 4方向スイッチ、チャックア-ムの上下動及びボールの左右移動
4. チャックの開きボタン
5. チャックの閉じボタン
6. なし (特別仕様シフティング早送り)
7. なし (特別仕様ツールディスク反転レバースイッチ)



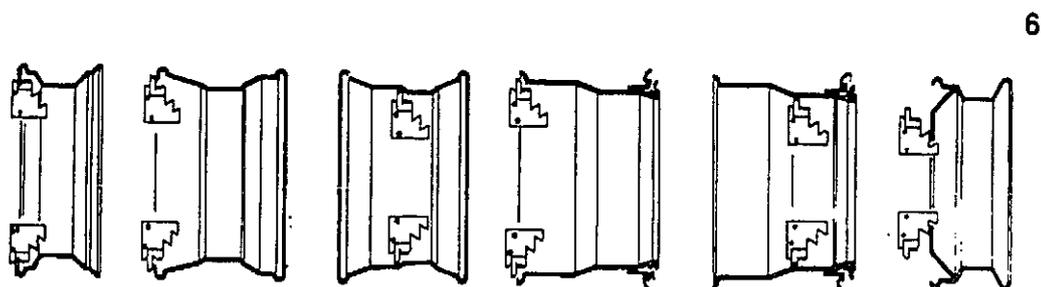
注意; スイングア-ムを引っ張り動かす場合はスイッチを持たずにフレームを持ってください。

ツール（フック）とビードリムーバードスクの反転方法

ツールA からディスク B に180度反転しD 方向に起こします。 (図4, 5)



ホイールの位置取りとクランプ (図6)



- ツールホルダーアームを背に倒す。(上に起こす)
- ホイールを垂直に置く。
- ターブル (チャッキング) を操作し、ホイールをクランプする。

・ 注意

チャッキングの爪が各グリップ点を正確に且つキッチリとクランプしている事を確認する事。

・ 注意

長時間オイルをケラフした状態で放置しない事。

タイヤの脱着の前には、タイヤの損傷や脱着作業が容易に出来る様にタイヤのグッド部に潤滑剤を十分に塗って下さい。

⚠ 警告

建機用タイヤは完全に外す前に出来るだけバース近くに持って来る事。

15. 消火器

機械は多様な異なる材料から成っておりますので、火災の場合対応状況によって異なります。

	乾燥材料	可燃液体	電気器具
水	YES	NO	NO
泡	YES	YES	NO
粉末	YES	YES	YES
CO2	YES	YES	YES

上記表は一般的なガイドですが、具体的な事に関しては消火器業者に相談願います。

16. 随時点検 (修理エンジニア用)

A)

下記テーブルに記載したドライビングトルクを使ってエア、ボルト及びナットをチェック又は締め付けて下さい。

M6	M8	M10	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24	M27	M29	M30
Nm 10	Nm 25	Nm 50	Nm 87	Nm 138	Nm 210	Nm 289	Nm 412	Nm 559	Nm 711	Nm 1049	Nm 33	Nm 1422
Kgm 1	Kgm 26	Kgm 5.1	Kgm 8.9	Kgm 14.1	Kgm 21.5	Kgm 29.5	Kgm 42	Kgm 57	Kgm 72	Kgm 107	Kgm 2.16	Kgm 145

B)

ベルトをチェックし必要ならモーターサポートの調整ボルトの調整でベルトを適切に張って下さい。

・ 注意

緊急点検は専門家に依頼して下さい。

⚠ **警告**

油圧関係の点検に際しては、機械を静止状態で置き、アームは下げて、チャッキングは閉じた状態で行って下さい。

MF

TB-26

取扱説明書

タイヤ脱着方法

(お詫び)

当作業説明書の内容に関して、文字が読みにくい箇所があります。

濁点文字、点を使う文字（例えば、シ、ツ、ジ など）等消えている箇所があり読み難いかと存じますが、何卒ご容赦頂きます様お願いいたします。

（株）フリーマタイヤサプライズ

目 次

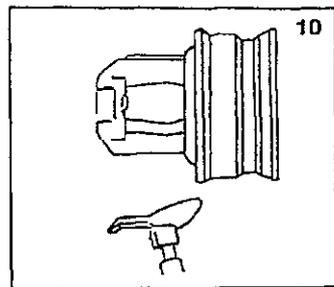
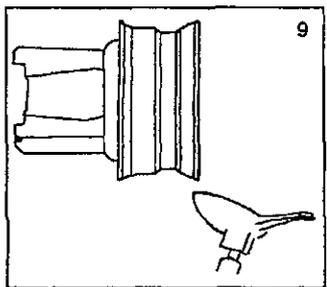
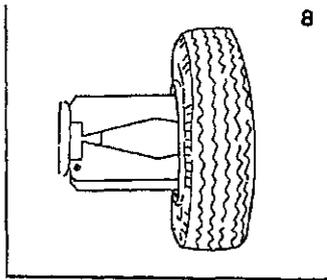
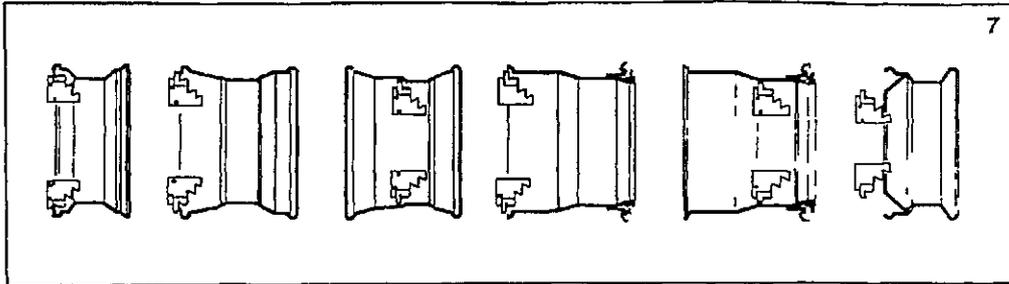
1	コントロールボックス-----	16
2	リムクランプ能力-----	17
3	チャッキング方法-----	17
4	チューブレスタイヤ脱着方法-----	18
5	チューブレスタイヤの組み付け-----	18
6	L型ツールを用いてビードをはずす方法-----	19
7	L型ツールを用いてビードを組み込む方法-----	20
8	割型リム（リング付）のはずし方-----	21
9	割型リム（リング付）の組み付け方-----	22

リムクランプ能力

センターホール 120--530mm
リム部 14インチ—26インチ
タイヤ外径 1500mm (max) 幅 780mm 重量 1000kg

チャッキングの方法

下図7~10を参照下さい

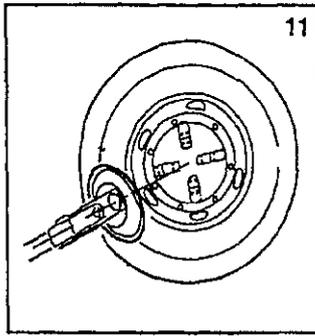


ビードドロップセンターの位置は、必ず外側（図の右側）になる様に注意してクランプして下さい。

(参考)

ホイールメーカーによっては、ドロップセンターの位置が反対になっているものがありますので、必ず確認してから実行して下さい。

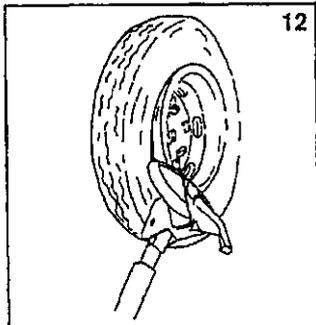
注意； 若し反対から脱着をした場合、ビードを傷めたり爪を損傷したりする事もあります。



チューブレスタイヤの脱着の仕方

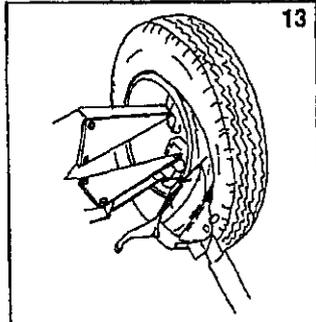
- 1) エアーを抜きます。
- 2) ツールを上方に解除します。(ペダルを踏んでロック解除)
- 3) タイヤ/ホイールをクランプします。
- 4) コントロールレバーを操作してタイヤを持ち上げ、奥へ移動する。
- 5) ツールディスクを図11のように下方に倒しロック爪を掛け固定する。

注意； その際、スライド部のストッパーを合わせる事。
ツールの反転は、垂直位置でロック解除して押し込む。



- 6) タイヤ/ホイールを上下させ位置合わせをして、
タイヤを時計方向に回転しながら、横方向に少しずつ移動しディスクでビードを押し込み外す。

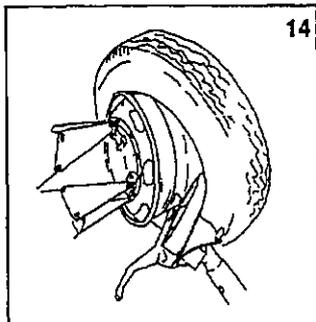
- 7) 外れたら、ビードクリームをビード、リム全周に十分塗布します。



- 8) ディスクツールをロック解除し、上方に位置して押し込み反転後裏側に移動する。
- 9) 支柱を倒し、ロック爪をストッパーに位置合わせ固定する。

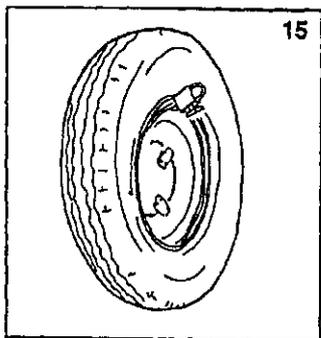
- 10) 同様に時計方向(右回り)に回転しながら少しずつ送り込み押し出しますと表のビードが落ちて外れます。

ビードが落ちなければ手、ラバーハンマー又はかかとで押し込みながら
徐々に外します。



注意； この時 表側のビードがリムから落ちて外れていることが最重要です。(若し乗り上がっていたらビードを傷めます)

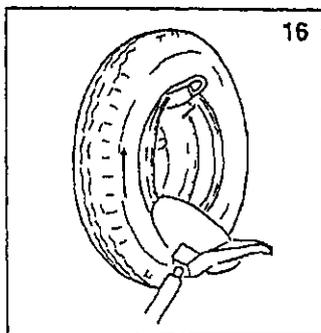
チューブレスタイヤの組み付け方法



- 1) タイヤ/ホイールをチャックに固定します。
- 2) リムエッジにビードホルダーを取り付ける。
- 3) 左回転（反時計回り方向）し、ホルダーを9時位置から下側に位置します。
- 4) タイヤのビードにクリームを塗布する。
- 5) ホルダーにビードを引っ掛け時計回りに少し回転して持ち上げる。 (図15)
- 6) ディスクツールをセットし、図16の様に押し込み回転させるとはまり込んでゆきます。

注意; この時ビードがリム部に乗り上がるようであれば、手、足のかかと、又は、ラバーハンマーで叩きドロップセンターに落とし込みながらはめ込んで下さい。

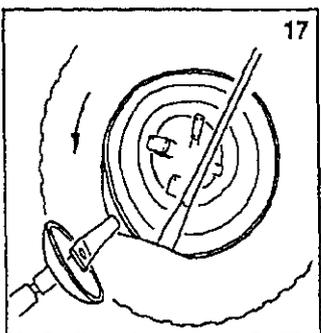
そうしないと、ビードを損傷する事があります。



ビードホルダーを使用しない組み付け方法

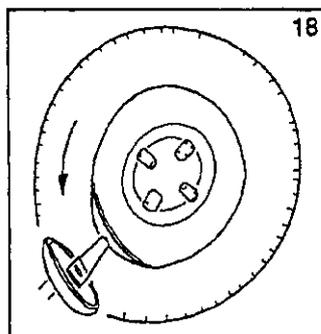
- 1) タイヤ/ホイールをクランプします。
- 2) タイヤをホイールにかぶせる様に乗せます。
- 3) 強くビードを押し込むようにタイヤを押し込むと抜けずに固定できます。
- 4) ディスクを合わせ、図16の様に当てて右手でタイヤを押しさえつけながら時計回りに回転するとはまり込んでゆきます。

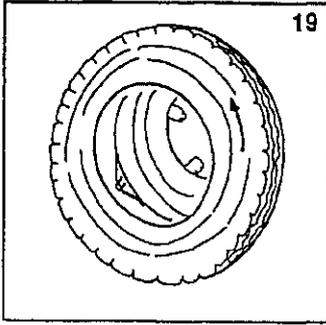
注意; ビードが乗りあがらないようにして下さい。



L型ツールを使用してビードを外す方法

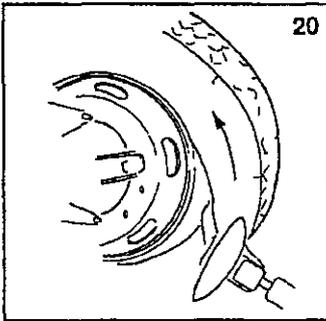
- 1) Lツールをビードとリム部間に差込み、僅かタイヤを持ち上げ隙間を作る。
- 2) ツールを僅か外に引っ張り、図17のように長いレバーを差し込む。
- 3) 左回転（反時計回り）すると外れてゆきます。 (図18)





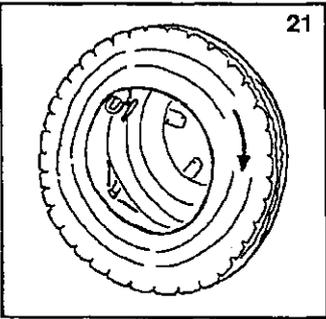
- 4) 今度はソールを裏に位置換えして奥側から同様に、リム、ビード間にツールを差込み、少し外側に押した状態で時計回りに回転すると外れます。(図19, 20)

注意; タイヤが外れる時に右手でタイヤを支えてください。



L型コンビネーションツールを用いてタイヤの組み付け

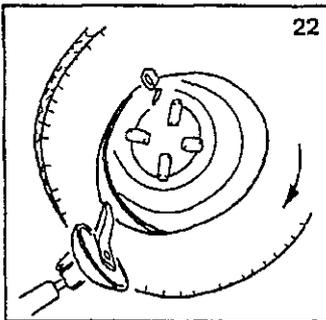
- 1) スーパーシングルタイヤ、扁平タイヤO・Rタイヤの場合にディスクでは嵌め込みにくいので、L型ツールで装着します。
- 2) リムエッジにビードホルダーを取り付けます。
- 3) ビードホルダーにタイヤを引っ掛けてもちあげる。
- 4) L型ツールを裏側に移動します。
- 5) 図20、図21のように差込み時計回りに回転すると装着できます。



- 6) 次に表側にツールを移動して、図22の様に同様に時計回りに回転するとはめ込み出来ます。

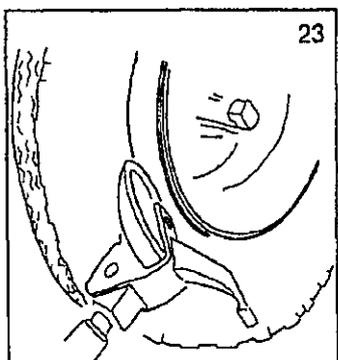
注意;

リムのビードシート部がビードが乗り上げないようにして下さい。

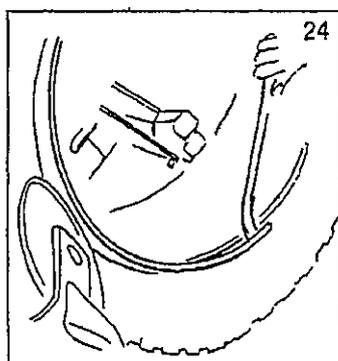


割形型リム(リング付き)の外し方

- 1) ツールディスクをタイヤビードと、リム の間に差し込む様にし
ながら押し、又タイヤを下げるようにして隙間を作る。
(ビードを落とす)



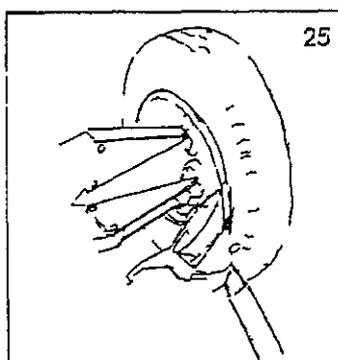
- 2) 約1cm の隙間が出来たらリム を外す。

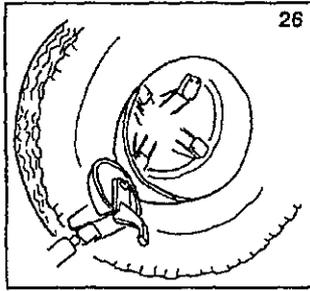


- 3) ツールを裏側に移動し、
- 4) 次に時計回りに回転しながら押し出す。

若しチューブタイプの場合、

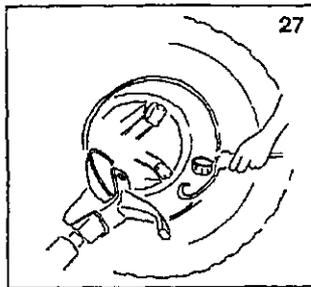
- 5) 途中迄押し出したら、バルブを押し込んで抜き全てを外します。





割型リム(リング付き)の組み付け

- 1) ホイールを先にクランプする。
- 2) 床でタイヤビードにクリームを塗布し、チューブ、フラップをセットします。
- 3) ホイールのバルブ穴を真下にし、タイヤをテーブルにのせバルブ穴にバルブを通し位置合わせしながらディスクでビードを押し込む。(図26)
- 4) 最後にフランジ、ロックリングを組み付けます。



警告: ⚠

エア供給を実行する際は、安全上必ずソールディスクをタイヤの前に位置固定して、ガードしてください。

(図27)

又は、安全ケージを使用して給気して下さい。

保守事項

- 1) マウント/デマウントツールのスライディングベース部は常に綺麗にして給油をして下さい。
- 2) 3~6 ヶ月毎にグリースニップルにグリースをポンプアップして下さい。
- 3) 3ヶ月以内毎に摺動部に潤滑油を注油して下さい。
- 4) 油種
 ギアオイル; API DT 100 同等品
 油圧油; API CIS 32 同等品

電源ソケット部の線の緩み点検 (電気を切って実施)
 モーターの加熱お台どの場合、単相運転になっている場合が原因です。

保証規定

- 1、 保証期間は、機械設置の日より1年間といたします。
- 2、 保証期間内において取扱説明書に従った正常な使用状態において万一生じた製造上の責に帰す故障につき、無償で修理いたします。
- 3、 保証期間内であっても、下記の条件に該当する場合は修理に要した部品の実費および出張に要した費用などは有料となります。
 - (イ) 保証書の提示がない時。
 - (ロ) 使用上の誤り、不適当な修理や改造による故障、損傷
 - (ハ) 天災、火災、異常電圧、地震、その他外部からの要因による故障、損傷
- (ニ) パッキン、Oリング、ホース、エアージェージ等の消耗品。
- 4、 スペアパーツの保有年数を設置して、7年間とします。
- 5、 保証期間終了後のアフターサービスは有料です。
- 6、 本保証は日本国内においてのみ有効です。
- 7、 保証書の再発行はいたしません。

(株) プリマタイヤサプライズ

〒160-0022 東京都新宿区1丁目25番地14号

第2関根ビル2階

電話 03-3358-6908 FAX 03-3358-6954

<http://www.premajapan.co.jp/>



MONDOLFO FERRO S.P.A.
Viale dell'industria, 20-61037
MONDOLFO (PU), ITALY,
+39 0721 93671 / FAX +39 0721 930238

www.mondolfoferro.it